

平成27年度 日本大学藤沢高等学校・中学校
外部評価結果（総括）

平成27年度、藤沢高等学校・中学校より依頼を受けた外部評価者5名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全・危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

消防・防災計画及び救急システムの整備、ホームルームや夏季・冬季特別授業における災害・インターネット安全教室、登校時のメールによるお知らせシステムなどの取り組みが図られているとともに、学校生活における厳格な規程（校則）が十分整備されていると思います。

東日本大震災以降、私学を選ぶ際のひとつの要素として、地震、津波、その他の災害に対する安全性を考慮する保護者が非常に増えている中で、本校では、登下校時、授業中、休み時間など、その状況に応じての十分な対策がされていると思います。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

中学校の夏季・冬季特別授業にて東日本大震災について調査し、プレゼンテーション（藤沢防災フェスタにて）を実施しているなど、通常の授業では扱いにくい内容をテーマに取り上げるとともに、特に社会の時間でこのような災害について生徒各自が真剣に考え、調べ、発表を通して情報を共有し、今後活かしていく姿勢は極めて優れていると思います。

「消防・防災計画」においても、防災避難ブロックの担当者がきちんと配置され、緊急時の連絡体制・救急システムについても非常にわかりやすくマニュアル化されている点は評価できます。

校則や学校生活のしおり等に厳格な規程を定め、教職員の日常の指導により、学校内外の風紀を粛清し、これにより服装の乱れが少ないなど生徒自身に一定の生活水準が保たれる仕組みが構築されていると思います。

また、登下校の記録や災害発生時にメールを発信し、家庭に安全をお知らせしているのは、保護者の立場からもきわめて安心でき、優れた取り組みといえます。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

平成26年度学校自己点検・評価シート集計結果では、保健・衛生部門で学校の安全管理体制の強化、防犯教育の充実など学校安全対策に取り組んでいるかの質問に対して教職員の51名回答中12名ができていない、あるいはあまりできていないと答えているため、今後の取り組み向上を望みます。

地震・津波対応については、校舎も新しく、湘南の海からも離れた高台に位置していることから、被害は最小限に抑えられるため、当面、特に改善が必要である点は思い当たりませんが、今後もシミュレーションの重複励行を行うなど、油断無く実効性のある防災対策に取り組んでいただきたいと思います。

その他気づいた点、疑問点など

本校の大きなアドバンテージとして、広大な敷地に恵まれ、避難場所に困ることのないこと、また、六会日大前駅から徒歩数分に位置し、一つの信号、一つの交差点も通らずに登校できる点があげられ、このような好立地にある私学はそれほど多くはありません。防災対策・交通安全という

観点からも、この点をもっと外へアピールしても良いのではないかと考えます。

制服、靴、鞆等を統一することにより、風紀の乱れを抑制しています。カバンについては、リュックとして使用できるなど防災向きであり良く考えられている。

☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

保健衛生については、保健室の他、生徒からの相談に応じるための、カウンセラー室が整備されるとともに、AEDの講習会を教職員と希望生徒に実施しているのは素晴らしい。

事故発生時の対応マニュアルについては、学校要覧にその詳細が記載されており、十分な対策が施されていると思います。さまざまな点において充実した対応が図られています。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

最近、登校拒否、いじめ、高校生による凶悪事件も頻発しており、この世代の生徒を預かる学校側としては、生徒指導には大変な気配りが必要であろうと思いますが、週2回日本大学本部学生相談センター派遣のカウンセラーによる対応を行うとともに、生徒相談担当教諭も昼休み・放課後に対応しているのは保護者にとってもきわめて心強い取り組みといえます。

カウンセラー室の利用についても、電話での相談や、匿名でもかまわないことなど、生徒の側に立った対策が施されており、強い感銘を受けました。

部活動も盛んで施設も充実しているため、今後もバランスの取れた生徒が増えると思います。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

保健衛生については、ソフト面もハード面も充実しているようですが、強いて言えば、防犯教育の充実があまりできていないとの指摘が若干あるため今後の対策の充実を期待します。

保健室の利用状況表を見ますと、高校生で6月と9月、中学生で9月と1月に利用割合が高く、何らかの理由があると思われるので、月ごとの症状の件数とその対策へのシミュレーションがあると、今まで以上の対応が可能になると思います。

また、生徒に対する相談対応を充実させるためにも、教職員がメンタル不調にならないよう教職員のメンタルケアに積極的な取り組みを期待します。

その他気づいた点、疑問点など

生徒相談担当教諭も昼休み・放課後に対応しているのは手厚いが、一方で、当該教員にとっては時間的な意味でかなり負担になると思います。

運動部が盛んな学校ですので、部活中の事故などが多いのではないかと危惧しておりましたが、救急システム（傷病者への対応）が完備されており、更にAEDを設置するなど、十分な対策が施されている。

また、インフルエンザやノロウイルスなど、拡散しないように予防に努めていただきたい。

☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

生徒に対する日本大学学部説明会、日本大学個別進学相談会の他、センター試験プレテスト、大学過去問貸与を実施するとともに、先輩・後輩間の情報交流などを通じて、日本大学や難関大学進学率の高さを保っています。

授業についても、中高一貫で綿密なプログラムが組まれており、その中では、特進クラスの設置や日本大学生物資源科学部と連携したフィールドワークの実施、課外授業や海外研修など特色のある取り組みがなされています。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

日本大学への進学については、日本大学学部説明会・日本大学個別進学相談会を実施することにより、学科ごとの違いがより明確になり、進学先のミスマッチを少なくし、日本大学に対する生徒の帰属意識も高めることができていると思います。

他大学への進学については、大学過去問貸与、センター試験プレテストの実施により、必要な学力レベル・雰囲気を経験でき、生徒の意識もより一層高まると考えられ、生徒・保護者のニーズに合っているのではないかと考えられます。

これに加え、ホームルームをはじめとした日常的な学習指導や先輩・後輩間の情報交流、保護者を交えた三者面談、夏期特別補習や勉強合宿などの取り組みの結果、日本大学のみならず、国公立大学や難関私大にも多数合格しており、生徒・教職員双方の努力の結果としてとらえることができます。

中学部設立当初から行われているフィールドワークは、大学も含めた本校の特色を遺憾なく発揮した優れた取り組みだと思います。中学校にとっては、他私学との最大の差別化になっていると思います。また、野菜作りに従事する経験は、今後の生徒の皆さんにとって人間形成の上でも大きな効果があるものと考えます。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

平成26年度学校自己点検・評価シート集計結果では、進路指導部門でキャリア教育等、生徒の体験的活動を積極的に取り入れているかの質問に対して、教職員58名中23名ができていない、あるいはあまりできていないと答えているため、今後何らかの改善策が必要と思われます。

また、大学付属校にとって、在校生に他大学への受験を目指させることは極めて困難なことであると思います。今後も、国・公立をはじめとした他大学への進学を目指す方向を維持するのであれば、日本大学以外へ進学することの意義、あるいは受験勉強をすることの必要性を生徒の皆さんに強く訴えていく必要があると考えます。

日本大学への新推薦入試制度については、初年度ということもあり選考基準が一部不確定であったと思います。今後は、入学時から一定の基準を示すことができるようお願いいたします。

その他気づいた点、疑問点など

生徒による授業評価アンケートの実施及びシラバスの作成は、授業進行上大きく役立つものと思われ、優れていると思います。授業評価アンケートは、以前より評価が大きく高まっていると感じ、この点も先生方のご努力がうかがわれます。

☆保護者・地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

後援会活動や保護者説明会、登下校お知らせシステムを通じて、積極的に保護者とのコミュニケーションをとる姿勢が感じられます。また、生徒もボランティア活動を通じてより多くの地域との交流（地域小学生との交流会や防災フェスタ参加）を図ろうとしています。

当該校の取り組みについて優れていると認められた点

生徒会の生徒が中心となって、自発的に今後地域とのコミュニケーションをさまざまな形で深めていこうとしている点が評価できます。

また、授業参観や保護者会で保護者に必要な情報が提供されるほか、登下校お知らせシステムを利用し保護者に安全を知らせていることや、保護者も日本大学本部学生相談センター派遣カウンセラーに相談できる点が評価できます。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

多くの生徒を抱えている学校では、個々の生徒への目が行き届かず、学業の上では落ちこぼれを、生活面では登校拒否を生み出しかねませんが、この点においては十分なお配慮が為されているとは思いますが、今後ともすべての生徒の皆さんが楽しく通える学校であって欲しいと願います。

普段は生徒・教職員の安全確保の面では難しいと思いますが、非常時の災害訓練を学校だけでなく藤沢市と連携して企画・実行すれば地域住民とのコンタクトが良くなると思います。

保護者が生徒の学校生活をより知る機会をつくるため、体育祭についても土・休日に実施したら良いと思います。また、新しいグラウンドについて、地域住民とのコミュニケーションをとる場所として活用を期待します。

その他気づいた点、疑問点など

今後は、小・中・高一貫校の良さを発揮して、地域との交流をさらに増やしていただくことを期待したい。

全体評価

評価概況
<p>今回の評価項目である、生徒の安全・危機管理，保健衛生に関する生徒への指導・相談体制，キャリア教育と日本大学への進学指導，保護者・地域とのコミュニケーションについて，いずれも高いレベルの取り組みがされていると評価します。</p> <p>今後も，現行の取り組みについて，計画的に実行し，定期的に点検・評価し，必要に応じて改善することで，生徒・保護者・地域からも信頼される高いレベルの学校運営が継続されることを期待します。</p>
評価できる点
<p>「消防・防災計画」で緊急時の連絡体制・救急システムについても非常にわかりやすくマニュアル化されていること，登下校時のメールによるお知らせシステムの導入，厳格な校則，カウンセラー室の充実，日本大学や他の難関大学への進学対応，日本大学生物資源科学部と連携したフィールドワークの取り組み，生徒会を中心とした地域とのコミュニケーションなど，高いレベルの取り組みが実施されていると評価します。</p>
改善すべき点
<p>安全管理体制，防犯教育，教職員へのメンタル不調防止対応，進路指導，新しいグラウンドなど学校施設を利用した地域（学園都市むつあい）とのコミュニケーションづくりなどの取り組みが，さらに充実されることを期待します。</p>
その他感想
<p>選挙権の18歳以上への引き下げやSNSへの対応など，引き続き難しい対応が必要となりますが，十分な整理ができ，円滑な学校運営がされることを期待します。</p>